



【第43期初級陸曹特技課程「准看護師」戴帽式】平成30年10月2日

自衛隊札幌病院（病院長：大鹿陸将）は、平成30年10月2日（火）、北部方面総監、北部方面総監部医務官、同人事課長、訓練課長、北部方面隊最先任上級曹長及び病院関係者等が臨席する中、第43期准看護学生の戴帽式を挙行了しました。

厳粛な雰囲気の中執り行われた戴帽の儀において、真新しい看護衣に身を包んだ25名（男子：14名、女子：11名）は、看護教官からひとりひとりにナースキャップを戴いた後、学生長の指揮のもと衛生科精神を唱和し、医療従事者としての誓いを新たにしました。

式にあたり、准看護学院長（相羽1佐）は「積極的に臨む気力」「蓄積した知識を活用できる知力」「長期間に及ぶ実習に耐える体力」を充実し『真に役立つ衛生救護陸曹』を目指し、「特技力」を覚醒させるべく有意義な臨地実習にせよと要望し、病院長は、「努力する人になれ」「誇りを持って」の2点を掲げ、実際の患者に接する中で人として大切なことを守り、一つ一つ経験を積み重ね成長してゆくことを期待すると述べました。

来賓の北部方面総監部医務官（竹島1佐）は「責任感」を持って知識・技術の修得に努め、今抱いている覚悟と決意を忘れずに精励せよと述べました。

北部方面総監（田浦陸将）は、記念撮影後、学生ひとりひとりに激励の言葉をかけ、固い握手を交わし会場を後にしました。



戴帽の儀



戴帽の儀



准看護学院長（相羽1佐）式辞

